

今週のメニュー

■トピックス1

◇PVC Award 2025 受賞作品が決まる！

■トピックス2

◇韓国 PVC 建材リサイクル事情の調査

■トピックス1

◇PVC Award 2025 受賞作品が決まる！

PVC（塩化ビニル）素材の特長を活かした魅力ある製品を表彰するコンテスト「PVC Award 2025」の受賞作品が決定しました。今回のテーマは「生活を豊かにする PVC 製品」。全国から 94 点の魅力的な作品が応募されました。審査は、一次審査、外部選考員による推薦審査、そして最終審査を経て、受賞作品が決定しました。受賞作品の詳細は、公式ウェブサイトにて公開しております。ぜひご覧ください。

[公式サイト] <https://www.pvc-award.com/>

今回のアワードでは、大賞に該当する作品はありませんでしたが、準大賞（副賞 50 万円）が 2 点、優秀賞（副賞 10 万円）3 点、特別賞（副賞 5 万円）3 点、入賞（副賞 2 万円）5 点、および、今回から新たにデザイン賞 2 点（副賞 5 万円）が選ばれました。以下に受賞作品を紹介します。

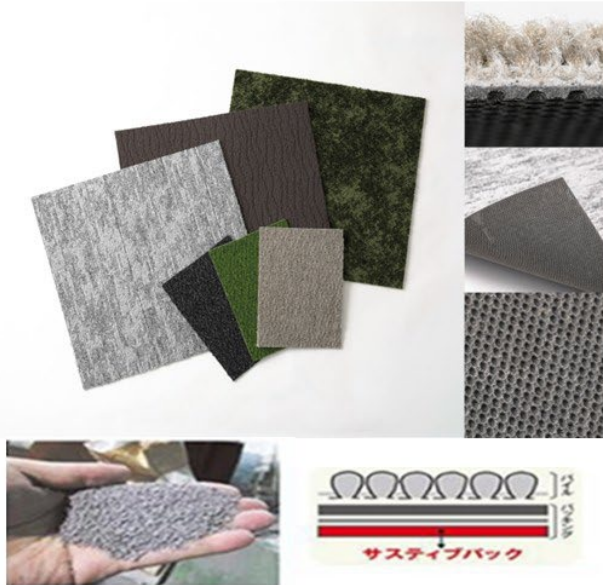
【審査基準】

- ・テーマ「生活を豊かにする PVC 製品」との整合性
- ・市場性：市場の規模・売上・伸び等実績、潜在市場獲得力があるか
- ・機能性：PVC 素材の特長が活かされ、機能性を有する製品であるか
- ・独創性：新規性や創造的な発想・表現がデザインされているか
- ・環境・社会貢献度：リサイクル、健康、防災、省エネなどへの貢献



PVC Award 2025 準大賞

東リ株式会社
「環境対応タイルカーペットバックینگ
『サスティブバック』」



・タイルカーペット(TCP)は、塩化ビニル層と繊維層で構成されています。従来のリサイクル工程では、塩ビ層を分離する必要がありましたが、本取り組みでは分離工程を省略し、回収したTCPを直接粉碎・パウダー化して再生TCPの製造に活用する「完全水平リサイクル」を実現しました。さらに、この再生TCPは繰り返しリサイクル可能である点も大きな特徴です。現在、回収システムを構築済みであり、年間8,000トン規模の大型処理設備の導入も完了しています。

- ・2022年6月発売
- ・塩ビ特性(リサイクル適性、繊維素材との混合性)

・審査会においては、回収を含むリサイクルシステムの構築、大型処理設備を含む体制整備、ならびにこれまでの実績が高く評価されました。

1

PVC Award 2025 準大賞

義春刃物株式会社
(共同:森松株)
「彫ると輝く彫刻アート
『シャインカービング』(KIRIKOバージョン)」



・高透明な塩ビシートを彫刻刀で加工すると、彫刻面がガラスのような質感を呈します。この特性にUV印刷を組み合わせ、新しい彫刻アートを創出しました。現在、国内外で認定講師を養成し、教育・認知症予防・ワークショップへの展開を推進しています。

- ・2022年3月発売
- ・塩ビ特性(彫ると断面光沢が出る特性、透明性、UV印刷適性)

・審査会では、芸術性と教育・認知症予防・イベントなど幅広い展開が高く評価されました。透明塩ビシートに彫刻刀とUV印刷を組み合わせ、デザイン性豊かな切り調を実現しています。

4

優秀賞、特別賞、入賞、デザイン賞は下記のとおりです。詳しくは、公式サイト(<https://www.pvc-award.com/>)にてご確認をお願いします。

- 【優秀賞】 ・ 簡易型止水シート とめっぱ®light (帝人フロンティア株式会社)
- ・ PVC レトロタイル (大和ちさ／OIL Design)
- ・ HACHI-ISU (ハチイス) (濱脇理恵／Racine Design)

- 【特別賞】 ・ change bag (森松株式会社)
- ・ 山波商店 キャプチャー (株式会社ハリミツ)
- ・ 便利ナット付きユニオン継手 (東栄管機株式会社)

- 【入賞】 ・ アキレス ソーラークリア S (アキレス株式会社)
- ・ 耐スクラッチ性+高耐候性 PVC フィルム (オカモト株式会社)
- ・ 普段使いできる防災バッグ (株式会社サンビニール)
- ・ PTP シートリサイクルロープ (株式会社ベルテック)
- ・ ワンタッチサイリウム (白金化成株式会社)

- 【デザイン賞】 ・ LUTILE (ルティル) (TOMOMI YOKOYAMA DESIGN)
- ・ Adam Basket Tray M (株式会社 KOMORU)

今回、外部審査員を務めていただいた橋田氏、山本氏から次の講評をいただきました。

【芝浦工業大学 デザイン工学科教授 橋田規子氏】

「本年の審査では、材質に取り組んだ作品と、ユニークな使い方の作品という両面が見られました。材質に取り組んだものとして、タイルカーペットの水平リサイクルは分別することなく製品全体をリサイクルチップ化出来るという秀逸なものです。また、遮熱性や耐スクラッチ性のある透明シートは、今後大いに活用して行けそうだと思います。ユニークなものでは塩ビを彫刻で掘るホビーキットや、ワンタッチでスマホライトを押し色にする塩ビシールなど意外な使い方が面白いと思いました。また、釣った魚を愛でるための携帯透明容器は、様々な自然教育で活かしていけるでしょう。デザインの的に意表を突かれたものは、リンゴ粕を混合した容器で、形と質感に趣がありました。他にも高級感を狙ったバッグなども良いと思いました。塩ビの機能性を活かした製品はまだまだ考えられそうです。今後も、機能性を活かしながらも、デザイン性を加味したバランスの良い作品を期待したいと思います。」

【国立大学法人 東京科学大学理事 山本佳世子氏】

「本アワードは一般からの応募も多く、時代ニーズを反映した作品群となるのが特徴の一つです。今回は、憧れのタレントやキャラクターを応援する〈推し活〉関連や、猛暑対策として遮熱機能を追加した商品などが目立ちました。ただこれらは、ちょっとしたアイデア次第という面もあります。対して今回、私が注目をしたのは彫刻アート「シャインカービング」です。着色塩ビ素材をカットしてガラス細工のようにする手法はすでにありました。ですが応募者の彫刻刀メーカーによると、江戸切子のような輝きを引き出すには、自社製品のような切れ味のよい刃物が重要だとのことで、UV プリンターによる着色と併せて高い意匠性を実現しています。そして新たな彫刻体験に向けたキット販売、国内外約 100 人に及ぶ認定講師養成まで手掛け、ある種の〈ビジネスモデル〉を確立しているのです。次回のアワードでも、ピンポイントの技術やアイデアで終わらず先の展開まで考えを深めた、創造性の高い作品の応募を心待ちにしています。」

受賞作品は、防災や環境負荷低減に貢献する製品など、生活を豊かにする多様な PVC 製品が揃っている点が特徴です。さらに、受賞作品だけでなく、応募された全作品をご覧いただける 展示会 を開催いたします。展示会では、[来場者による投票で選ばれる「オーディエンス賞」](#) も設定しております。[ぜひご来場いただき、PVC 製品の魅力を体感し、投票にご参加ください。](#)

【GOOD DESIGN Marunouchi】（東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 1F）

2026 年 3 月 2 日（月）～ 13 日（金）

開場 11 時～20 時（13 日は 14 時まで）

【イオンタウン千種】（愛知県名古屋市千種区千種 2-16-13）

2026 年 3 月 19 日（木）～ 21 日（土）

開場 10 時～18 時（21 日は 14 時まで）

お問合せ：info@vec.gr.jp（PVC Award 事務局）

PVC Award：[公式サイト](#)

■トピックス2

◇韓国 PVC 建材リサイクル事情の調査

2025 年 9 月 15 日～19 日にかけて、隣国韓国の PVC 建材リサイクル事情について情報収集を行いました。今回の訪問先は下記の通りで、韓国における樹脂窓を含む PVC 建材の解体・中間処理、建材メーカーでのリサイクルの実態、業界団体によるシステム運営など、法制度を含めたリサイクルシステムの把握を目的としています。

■訪問先

- ・業界団体：韓国ビニル環境協会（KOVEC）、韓国建築材再活用事業共済組合（KCRC）
- ・総合リサイクル事業者：新星 RS、JAEIL Chemical
- ・建材メーカー：LX Hausys 清州工場

■韓国における PVC 建材リサイクルシステム

まず、今回の調査ヒアリングによって韓国における PVC 建材リサイクルシステムの全体像が見えてきましたので、その概要を図 1 に示します。

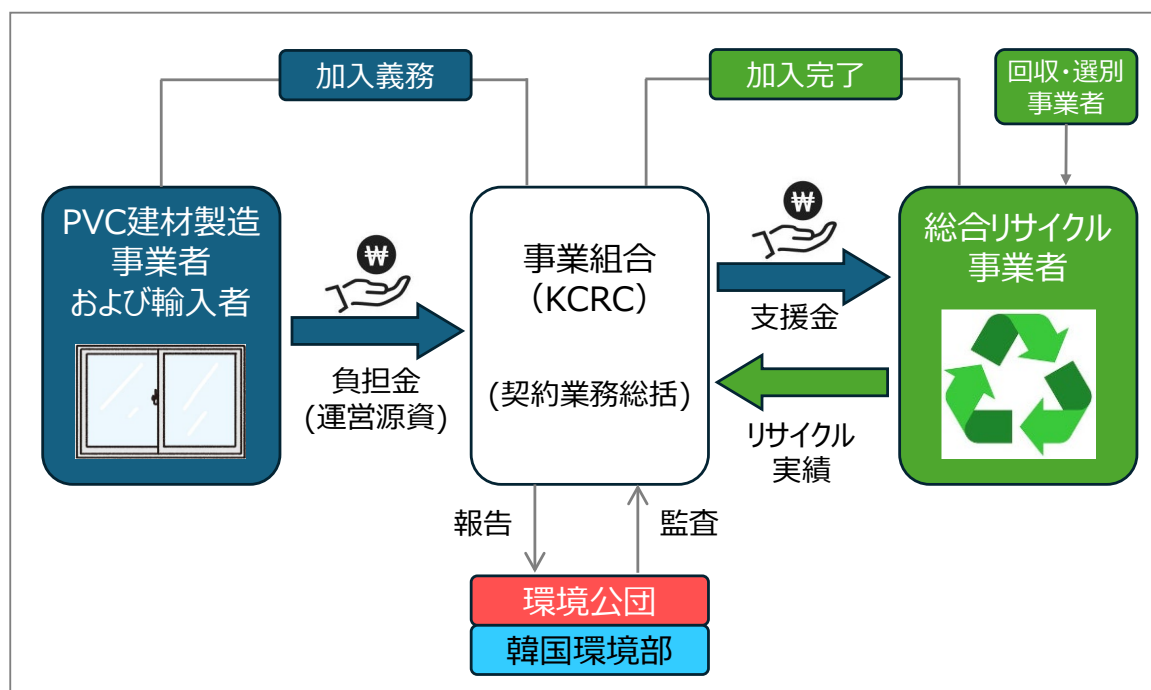


図 1. 韓国における PVC 建材リサイクルシステムの概要（ヒアリング情報より VEC 作成）

韓国における PVC 建設資材のリサイクル政策は、廃棄物負担金制度（～2008 年）に始まり、その後、自発的協約制度（2008 年～2023 年）および生産者責任リサイクル制度（EPR）（2023 年～）の各制度が運用されてきました。

現在は EPR の下、KCRC が中心となって PVC 建材製品の生産会社や輸入者から協力負担金を調達し、それらを原資としてリサイクル業者を補助・支援する仕組みが運営されています。PVC 建材生産者にその製品の廃棄物に対する一定量のリサイクル義務を付与してリサイクルさせ、それを履行しない場合はリサイクルにかかる費用以上のリサイクル賦課金を生産者に賦課します。2025 年のサッシのリサイクル目標値は 16.7%（パイプは 10.2%）、目標値は韓国の環境部（日本の環境省に相当）が KCRC と協議して 5 年毎に設定しています。KCRC の事業状態は定期的に環境公団（環境部の下部組織）から

監査を受けています。

KCRC は環境部の認定を受けて 2022 年に KOVEC から分離独立しました。対象となる PVC 建材の生産および輸入会社はもれなく加入義務があり、また総合リサイクル業許可を得た事業者も加入完了しています。加入団体数は、PVC 建材生産会社および輸入会社が 188 社（窓とドア：44 社、床 35 社、パイプ及びその他 109 社）、リサイクル事業者が 83 社（窓とドア：38 社、床 12 社、パイプ及びその他 33 社）です。なお、対象となる PVC 建材は、窓枠やドア枠、上下水道用や通信用の PVC パイプ、床材（居住用や床暖房用のリノリウム系、商業用や非床暖房用の床タイル類）、その他、射出成形品、平板、シート、ダクト、パネル等です。ここまででお気付きの方もいらっしゃると思いますが、韓国の廃棄物処理法には総合リサイクル業許可があるという点で日本の法制度とは大きく異なります。

韓国の PVC サッシ生産量 26 万トンに対し、約 2 割（約 5 万トン）が排出されると想定され、うち約 8 割（約 4 万トン）がリサイクル（工場端材：使用済み≒6：4）、水平：他用途リサイクルがおおよそ 2：8、と見積もっているとのこと。

なお、KCRC は共済組合と称しておりますが、いわゆる日本の「共済組合」とは異なり、事業組合と捉えていただいた方が理解し易いと思います。

このように KCRC はサッシやパイプなど、既にリサイクルシステムが確立されている業種を管理運営する組織であり、PVC 出荷量のおおよそ 7 割程度の業種に相当します。その一方で、KCRC の分離元である KOVEC（設立 2006 年）はリサイクルできていない業種の資源循環推進を目指しております。KOVEC が現在取り組んでいるのは、使用済み壁紙（出荷量約 2 万トン／年）のマテリアルリサイクルとのことです。なお KOVEC は樹脂メーカー 2 社（LG Chem、Hanwha）、可塑剤メーカー 2 社（愛敬、OCI）、加工メーカー 46 社（LX Hausys、KCC 他）から構成されております。

■現場の状況（総合リサイクル事業者）

新星 RS 社（1998 年設立、年間処理量 7,500 トン、忠清北道清州市）および JAEIL Chemical（2009 年創業、年間処理量 5,000 トン、京畿道浦川市）は何れも KCRC の会員企業です。ここでは、両社に共通している事項を紹介し、それぞれ個別のヒアリング内容は割愛させていただきます。

事業者の受け入れ品目は、主として工場端材、工場成形不良品および使用済み樹脂サッシ（1 次破碎品を含む）であり、それぞれがおおよそ 1/3 ずつを占めます。驚いたのは、使用済み樹脂サッシが工場端材と同等の品質で綺麗に積載されて納入されていることです（写真 2）。建設・解体工事現場ではリサイクルを前提として分別回収され、例えば回収・選別事業者が工事現場に出向いて自ら回収・手選別して、ガラスや補強材を外して、型材としてまたは 1 次粉碎して納入するケースが多いためです。



写真 1. 押出成形不良品



写真 2. 使用済み樹脂サッシ

基本的なリサイクル工程は、廃棄 PVC 受入れ ⇒ 手選別異物除去 ⇒ 一次破碎 ⇒ 機械選別（色彩選別込み） ⇒ 二次粉碎粉体化、の流れで再生原料は粉末状です（図2）。製品の半分以上を占めるのが白色系で A ランク扱いであり、白色系以外としては木色系やグレー系にランク分けされています。



図2. リサイクル製品例（粉体）

■建材メーカー（LX Hausys 清州工場、忠清北道清州市）

LG Hausys から 2023 年に現在の LX Hausys に社名変更しました。同社は 3 つのセグメント（建材、自動車材料・工業用フィルム、その他共通）で事業運営していますが、主たる事業は建材の製造・販売です。

昔の型材の大半は白色系でしたが、現在は消費者の好みが多様化して有色系も多くなってきたので、工場端材であっても白色系と有色系が出てきて、そのためリサイクルの難易度が高くなってきているそうです。

リサイクル型材の成形では、外層はバージン樹脂をメインとして 10～15%の再生原料を混ぜて使っています。一方で、内層（見えない箇所）では再生原料がメインで約 60%と使用比率を分けて押出成形しているとのことです。なお、先述した通り、有色系端材に由来する再生原料を使わなければならないので有色系だけを集めて、外層が白色に対して内層は有色再生原料を使う商品も生産しているそうです。

会社としては再生原料の使用比率を増やし、環境部と KCRC が設定した目標値（リサイクル材比率 16.7%、2025 年）を達成するためにはかなりの企業努力をしているとのことです。

日本でもそのような企業努力が当たり前になる日が来るのを願ってやみません。

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
